

(別添)

奄美大島の森林内においては、ノネコを目撃頻度が増加し、ノネコの森林内での繁殖や希少種の捕殺も確認されるなど、ノネコによる希少種への影響防止が課題となっています。

ネコは、国際自然保護連合の種の保存委員会が作成した「世界の侵略的外来種ワースト 100」にも選ばれ、世界的にも特に生態系被害が深刻な種として位置づけられています。また、「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト（生態系被害防止外来種リスト）（環境省，農林水産省 2014）」においても、ノネコは総合的な対策が必要な外来種，かつ特に緊急性が高く，国，地方公共団体，国民など各主体がそれぞれの役割において積極的に防除を行う必要がある緊急対策外来種に分類されています。

「外来種被害防止行動計画（環境省，農林水産省，国土交通省 2015）」では，侵略的外来種の侵入・定着が確認された場合には被害が顕在化する前に対応する方が，被害が顕在化してから対応するのに比べ，はるかに効果的であり，生態系等に与える影響も少なくすみ，さらには駆除等が必要な個体の数も最小限に抑えることができることから，早期に迅速に防除を図ることが重要であるとしています。

奄美大島においては，このような考え方のもとに，鹿児島県としても，環境省，奄美大島 5 市町村と連携し，「奄美大島における生態系保全のためのノネコ管理計画」に基づいた取組を進めているところです。